

市指定史跡

ま じ ゃ ん が ー 真謝井戸

石垣市指定史跡 真謝井戸の概要

真謝井戸は、石垣市白保の集落内、嘉手苺御嶽の南西側にあります。18世紀初期作成とされる「八重山島諸締帳」に、「真謝井 村内に有」と記されたのが、この井戸であるとされ、古くから村の井戸として利用されてきたことがわかります。井戸の形態は、石灰岩地帯の湧水を利用するため岩盤を掘り広げた降り井戸（ウリカー）で、階段を設けて、直接水面から水を汲めるようになっています。

白保の村は、1771（乾隆36、明和8）年にこの地を襲った明和大津波によって、村人の約98%が亡くなるという壊滅的な被害を受けました。この井戸も例にもれず、いったんは埋まってしまったそうです。ところが不思議なことに、ここに井戸が埋まっていることを言い当てた人物がおり、実際に掘ってみたところ、井戸は再建されたという伝承があります。

また、シンダスリ節という民謡には、

白保ティル島ヤ 果報ヌ島ヤリバ 真謝井戸バ後ディ ウヤキ前ナシ
真謝井戸ニ下リティ 水汲ムル女 カラジクルグルトゥ 目眉美ラサ

（意訳）白保という村は 果報な島で 真謝井戸を腰当てに 裕福を前にしている

真謝井戸に降りて 水を汲んでいる女 髪は黒々と 目眉の美しさよ（『八重山民謡誌』）

という歌詞があります。

このように、人々の暮らしに密着し、また、拝みの対象でもあるこの井戸は、1996（平成8）年11月12日に石垣市指定文化財史跡となりました。



真謝井戸を見学なさる皆さまへ

真謝井戸は、白保の集落の中にあります。市街地側から国道390号を北上すると、右手（海側）に真謝井戸を示す矢印があります。その表示に沿って進むと、真謝井戸を示す碑があります。

同井戸を使う行事としては、8月の初水の願（アラミジヌニンガイ）が行われます。また、道路を挟んで、井戸の北側には嘉手苺御嶽があり、豊年祭等の祭祀行事が行われます。その時にも、真謝井戸での祈りがあり、人々の信仰と深くかかわっていることがわかります。

そのため、祭祀行事の際には、見学が制限される場合がございますが、ご理解下さいますようお願いいたします。

なお、同井戸は、周囲をブロック塀や柵で囲み、通常は立ち入りが制限されています。地域の皆さまがたいせつに保存している場所なので、柵をあけて中に入らぬよう、ご協力ください。